

笑顔晴れやかに総合開会式

大会は、9月21日午後1時過ぎ、常陸宮ご夫妻のご臨席のもと行われた総合開会式で、盛大にその幕を開けた。

会場となった滝沢村の県産業文化センターには、全国からの参加選手や一般入場者ら約8,700人が参加。開会前の集団演技、雫石中学校の女子生徒120人によるはつらつとした「南部よしゃれ」の踊りが始まると、会場は熱気に包まれた。

開会式は、盛岡市立城南小学校鼓隊の先導による大会旗入場で開幕。続いて北海道を先頭に、北から南への順で58の都道府県、政令指定都市の入場行進参加者が、県の花などを手にし、晴れやかな表情で次々に入場した。最後に開催県である岩手県選手団。会場からはひととき大きな拍手が送られた。

佐々木副知事の大会宣言の後、大会会長である工藤岩手県知事から「みちのく岩手の地へようこそ。日ごろの鍛練の成果を遺憾なく発揮され、また世代、地域を越え多くの人々と交流を深めて、楽しく意義深い大会としてください」とのあいさつがあり、その後、来賓らのあいさつ、そして常陸宮殿下がお言葉を述べられた。

歌手の白鳥英美子さんによるテーマソング「明日へとつづく道」の披露の後、チャグチャグ馬コ、岩崎鬼剣舞などのアトラクションが続き、参加者らは、みちのく情緒いっぱいの演出を楽しんでいた。

▼会場いっぱいに広がった盛岡さんさ踊り



▲常陸宮ご夫妻ご臨席のもと、入場行進する岩手県参加選手団



▲歓迎のあいさつをする工藤岩手県知事



▲リンドウを手に晴れやかな行進

郷土色豊かな 入場行進



▶郷土の傘を手に鳥取県の参加者



▲金色のしゃちほこも登場



▲入所者とお言葉を交わされる常陸宮ご夫妻

常陸宮ご夫妻、 紫波の老人ホームを視察

ねんりんピック出席のため、来県された常陸宮ご夫妻が、21日、紫波町の特別介護老人ホーム「にいやま荘」を視察された。ご夫妻は、入所者に「お体に気をつけてください」といたわりの言葉をかけられるなど温かい交流のひとつときを持たれた。

▼開会式当日、ねんりんピックPRコンパニオンから参加者にリンドウがプレゼントされた



▲一鉢・花の祭典で歌手の白鳥英美子さんのミニコンサート。澄みきった歌声が会場を包んだ

まごころの花で歓迎

21日、午前11時から「一鉢・花の祭典」が、県産業文化センター内で行われた。これは、県外からの参加者を美しい花で歓迎しようといわれてきた一鉢・花の運動が実ってのもの。花と緑の農芸財団理事長・長島茂雄氏や岩手県老人クラブ連合会長・田沼範道氏、代表の子どもたちの手によって完成式が行われた。まさに県民の真心が結集した瞬間だった。



三世代の代表が、ねんりんピックのシンボルマークをかたどった花壇に鉢を植え込み、花壇が完成